

建学の精神

青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰に基づいて、行わなければならない。

青山学院教育方針

青山学院の教育は キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

Messages



青山学院理事長
山本 与志春



青山学院院長
伊藤 悟

サーバント・リーダーを育む

青山学院は、1874年、米国メソジスト監督教会から派遣された宣教師たちの祈りと献身によって始まりました。その小さな教育の種は、多くの先達の支えにより生まれ、創立152年を迎える今日、幼稚園から大学・大学院まで約24,000名を擁する総合学園へと成長しました。

創立者である三人の宣教師をはじめ、ジョン・F・ガウチャー、本多庸一、万代順四郎、津田仙、米山梅吉・春子夫妻らは、自らに与えられた賜物を他者と社会のために惜しみなく用いた、サーバント・リーダーの先駆者でした。

青山学院は、この精神を受け継ぎ、キリスト教信仰にもとづく教育を目指し続けます。そして、AOYAMA VISIONに掲げる「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」の実現に向け、教育・研究を支える施設・設備、優れた教育者・研究者・職員、健全な財政基盤と組織基盤を整えてまいります。

誰もが安心して生きられる世界をつくるために、青山学院に託された使命を心に刻み、未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園として、さらなる歩みを進めてまいります。

「地の塩、世の光」のもとに

青山学院は150年以上にわたり建学の精神、すなわち「キリスト教信仰に基づく教育」を堅持してきました。スクール・モットー「地の塩、世の光」のもと、すべての命を尊び、真理を追求し、人と社会に奉仕する人を育むことを使命としています。価値観が多様化する現代において、その使命は一層重要性を増しています。

青山学院では幼稚園から大学院に至る一貫教育を通して、知性と人格の調和を重視して他者と共に生きる力を養います。単なる知識の修得にとどまらず、自ら問い、考え、行動する力を引き出すことで、社会の課題に主体的に向き合う姿勢を育みます。また、国際的な視野と寛容さを備え、他者と社会に積極的に仕えるサーバント・リーダーの育成に注力しています。

これまで築き上げてきた伝統を継承しながら、今後も時代の変化に応じた教育の刷新に不断に取り組んでいきます。教育内容の充実と環境整備を推進し、揺るがぬ価値観に立脚した教育と研究を実現することで、未来を拓く人格を育成し、新しい時代を創造してまいります。

青山学院のシンボルマーク



青山学院の校章は設置学校ごとに独自のものが使われています。いずれも「信仰の盾（エフェソの信徒への手紙第6章16節）」を共通のモチーフとしており、神の守りと揺るがぬ信仰を象徴しています。